

日野市立教育センター一報

教育センターだより



第41号 平成29年7月15日発行

日野市立教育センター

○ 日野市立教育センター

191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

代表電話 042-592-0505

Fax 042-592-1148

午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分

URL: www.hino-tky.ed.jp./center/

○ わかば教室

〒191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

直通電話 042-592-0863

午前 8 時 45 分から午後 4 時



現場の教育実践に役立てる教育センターに

所長 松澤 茂久

私の故郷の長野県では、昭和40年頃まで小中学校には農繁期に“田植え休み”と“稲刈り休み”が各1週間程度ありました(その分夏休みが短い)。既に農家以外の家庭も増えていましたが、あの頃は家庭でも地域でも、それだけ人手と助け合いを必要とし、子どもたちも様々な人の生活や世の中と向き合わざるを得なかったのです。

その後の経済の発展は産業構造を一変させ、豊かで便利な社会を産み出しましたが、同時に地域や家庭の個別生活化が進行し、更にゲームや音楽機器・パソコン・スマホなどの普及がそれに拍車をかけました。人間は本来一人一人では弱い動物で、群れで暮らすことによってその力を発揮してきたのに、近年は、大人も子どもも、集団での生活や行動を苦手とし、現実から離れたバーチャルな世界に逃避する人が増えています。

日野市教育委員会が今年度の活動の目標に「＝世の中と結びつきながら＝ “いのち”を感じ “いのち”を伝え合い 生きるよろこびあふれる明日へ みなに参加し ともに知恵を出し合い 新たな創造へ」という言葉を掲げたのも、こうした社会の現況を踏まえたものだと思います。

道徳の教科化に象徴されるように、命の大切さや人としての生き方にかかわることまで、学校が主体となって教えなければならないことに、今の時代の難しさと学校現場の負担の多さが察しられます。

日野市立教育センターは、今までも「教育のまち日野」の「地域と共につくる基本と先進の教育」の一翼を担う機関としての自負をもって活動してまいりましたが、こうした新たな時代に向けた動きの中で、教育委員会を補佐しつつ、多忙な学校現場の実践に役立てるよう努力したいとします。所員数が減って掛け持ち分担が増えましたが、所員一同力を合わせて、平成29年度も以下の3事業を実施してまいりますので、よろしくお願い致します。

- ① 調査研究部門では、本年度も、学校現場や関係機関等と連携しつつ、よりよい授業実践や教材開発ができるよう、「理科教育」、「郷土教育」の研究に継続して取り組みます。また、「ひのっ子教育21開発委員会」の研究(昨年度から継続して「道徳」)を補佐します。
- ② 研修部門では、教育センター所員の専門性と経験を活かして、若手教員について実際の授業に即した個別指導を行い、授業力向上の力添えをします。また、教育委員会が実施する各種教員研修が円滑に実施できるように協力していきます。
- ③ 相談部門は、全国的に増加しつつある「不登校」に関する悩みや・課題を抱える家庭・子どもたちの相談や支援、資料提供を行います。適応指導教室「わかば教室」では、子どもたちの居場所を確保しつつ、子どもたちの実情に即して学習や進路等を一緒に考え支援していきます。また、登校支援コーディネーターが不登校状況の調査・分析を行い、学校や「発達・教育支援センター」のスクールソーシャルワーカーと連携して登校支援を行います。

教育センターの事業内容や活動状況は、webサイトでも紹介していますのでご活用ください。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」の推進、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、年間計画のあらましをお知らせします。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

ひのっ子が主体となる理科授業を目指して

小学校の理科授業の充実が急務といわれる昨今ですが、高等学校や大学で理科を必修として学べずに教師になった先生方は、理科授業の知識や指導技能の不足が考えられます。

日々の授業が「ひのっ子が主体となる理科授業」となるために、まず先生方を支えよう、理科の授業力向上のための支援をしようと考え、その具体的な手立てを実践研究しています。

（1）研究の手立て

① 教員・学校の理科授業への支援

・授業への参加

今年度も「海鳴りの丘」での地層見学に参加。

平山小学校6学年「土地のつくりと変化」地層見学

平山の土地について、成因を解説及び露頭での地層の説明



・日野の自然の教材化

「海鳴りの丘」以外の観察可能な露頭の開発を検討中。

・教材の配布

キャベツの苗(小学校4校)、チョウの卵(小学校5校)

メダカの卵(小学校3校)、モノコード弦(中学校1校)



メダカの産卵床

・理科室の整備・充実への助言

希望に応じて協力の予定。



メダカの卵

・理科観察実験アシスタント事業

全小学校で実施予定。

理科授業の準備、片付け等へのアシスタント配置。

② 教員の理科実技研修への協力

・理科ワークショップへの支援

年間9回を予定（現在3回目まで実施）

実施の周知、参加申し込み、理科授業へのアイディアの提供

・夏季、冬季の研修会への協力



プロペラを高く飛ばそう

③ 諸機関を活用した理科特別授業の実施（2学期より実施予定）

・日本電子、東京工業高等専門学校、首都大学東京

専門性を生かした授業を実施し、理科に関する児童生徒の興味関心を醸成します。

（2）組織・運営

・「理科教育推進研究委員会」を組織し、上記研究に取り組む。

・小学校・中学校校長会代表者を委員長・副委員長とし、計19名の委員により構成する。

・年間5回の委員会を開催し、研究を推進する。

～日野の自然・歴史・文化・産業・人を用いた授業づくり～

ー七生地区の冊子づくりを通してー

日野市は「緑と清流のまち 日野」「新選組のふるさと 日野」「芸術・文化の薫るまち 日野」「教育のまち 日野」等のキャッチフレーズがあります。このキャッチフレーズは、豊かな自然・歴史・文化、そして人材に恵まれた日野市の特色を的確に表現しています。この日野で生まれ育ったことを自信と誇りにできる日野を愛する「ひのっ子」を育成し、将来の日野を背負って立つ「日野人」の育成へとつなげていくことが日野市、日野の教育の大きな課題となっています。

郷土教育推進研究委員会では、以上の課題を解決するために、今年度は七生地区の冊子づくりを通して授業に活用しやすい資料の発掘や指導の流れを検討して参ります。これまでに発行した 第12集までの事例集を活かし、これまでまとめられることの少なかった七生地区の冊子づくりを行います。尚、これまでの事例集は日野市立教育センターのホームページで見られますので、是非一度開いて下さい。



平山 季重 の墓

1. 目的



熊野神社 参道

①郷土日野の自然・歴史・文化・産業・人に親しみ、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成する。

②郷土教育の取り組みをまとめ、その成果を各幼・小・中学校や各博物館・図書館等の関係機関で積極的に活用されるよう普及・啓発活動を進める。

③教職員対象の研修会で郷土のフィールドワークや実践事例の発表会を実施し、郷土教育を実践できる指導力ある教員を育成する。

2. 内容・方法

①日々の授業で活用できる郷土教材を収集・開発する。

②各幼稚園・小学校・中学校で実践できる指導計画を作成し授業実践を行う。

③教職員対象のフィールドワークや実践事例発表会を開催する。

④以上の実践は、学校が博物館・図書館等関係機関と連携・協力して行う。

⑤郷土教材や実践事例をまとめる。

⑥「郷土日野」指導事例第12集を電子データ（PDF）化し、ホームページに掲載する。



南平 見晴らし公園

3. 組織・運営

① 学識経験者 會田満、吉野美智子、小杉博司、高橋清吾

② 委員長 仲田小学校長 池田泰章 ②副委員長 日野第一小学校副校長 秋田克己 ③委員 井上晴香 杉山由佳 島谷直樹 木村文子 堀内正人 島方健太 関根夕紀 久保田聡 渋谷崇伸 永吉智洋 大久保 有紀 ④郷土資料館 白川未来 ⑤中央図書館 草木利香 ⑥新選組のふるさと歴史館 高橋秀幸 ⑦ 事務局 岡元大輔 中島和夫 廣木智之

⑧ 事務局会議委員 松澤茂久 阿井康之 中島和夫 清野利明 今野哲史 宮澤功一

ひのっ子教育 21 開発委員会

基礎調査研究係

「特別の教科 道徳」を踏まえた「日野の道徳」創造プロジェクト

(1) 主 旨

21 世紀を切りひらくひのっ子に「豊かな心」を育成するための道徳教育のあり方、指導方法、評価のあり方等を明らかにし、市立小中学校に広めるとともに、「特別の教科 道徳」の全面实施（小学校は平成 30 年度から、中学校は平成 31 年度から）に向けた準備を推進します。

(2) 研究の内容

「特別の教科 道徳」の学習指導要領に基づいた研究を行います。

- ① 道徳教育全体計画、年間指導計画、全体計画別葉のモデル及び作成のポイントを示す。
- ② 「考え 議論する道徳」の授業の追究・・・児童生徒が、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができる授業を実現する。

なお、授業研究を行う際は、日野市の重要課題に関連した道徳的価値である「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度の育成」「生命の尊さ」を取り上げる。

- ③ 「特別の教科 道徳」における評価について、目的及び基本的な考え方、評価方法について明らかにする。
- ④ 本市における家庭や地域の強みを生かし、学校と家庭及び地域が手を携えて推進する道徳教育の実践例を作成する。

(3) 年間研究計画（2 年次計画の 2 年目）

- ① 4 月 20 日（木） 組織作り、昨年度の研究内容の報告、今年度の研究について
- ② 5 月 25 日（木） 年間研究計画の確認、グループ協議
- ③ 6 月 22 日（木） 昨年度の開発委員による示範授業、研究協議、グループ研究
- ④ 8 月 29 日（火） グループ研究、2 学期に実施する授業研究の指導案検討
- ⑤ 9 月 21 日（木） 授業研究（A グループ）
- ⑥ 10 月 19 日（木） 授業研究（B グループ）
- ⑦ 11 月 14 日（火） 授業研究（C グループ）
- ⑧ 12 月 1 日（金） 授業研究（D グループ）
- ⑨ 1 月 25 日（木） 報告会準備
- ⑩ 2 月 8 日（木） 報告会（授業公開と研究報告）



目指す授業モデルの提案

(4) 講師・研究組織

年間講師

明星大学教育学部教育学科特任教授 小林 幹夫 先生

研究組織

小学校長 1 名 中学校長 1 名 小学校副校長 1 名 中学校副校長 1 名

開発委員……………小学校教員 17 名 中学校教員 8 名

事務局……………指導主事 1 名 教育センター職員 1 名 計 31 名

※ 開発委員を、近隣の学校同士で A、B、C、D の 4 グループに編制しました。

Ⅱ 研修部

1 若手教員育成研修

教職員研修係

(1) 1年次若手教員 (小学校26名、中学校18名 計44名)

年3回、1年次の若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。指導の観点は、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたります。1年目の教員として身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うべく、指導、助言を行っていきます。



(2) 2年次及び3年次若手教員 (2年次 小25名、中10名 計35名 3年次 小16名、中14名 計30名)

年1回、2年次及び3年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。2年次教員に対して担当所員は、1年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業評価を通して、改善策等を具体的に指導していきます。教科指導における生活指導のありかたにも触れ、より実践的な指導力を付けるためのアドバイスもしていきます。

3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うように、そして、児童・生徒の疑問や要求にも多面的に対応できる力を付けていけるようアドバイスをしていきます。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導助言にあたっていきます。

(3) 夏季研修 (2年次若手教員)

8月24日、日野第一中学校を会場にして、午前の半日、2年次の若手教員育成研修が開催されます。研修会では、若手教員が数名のグループに分かれ、各自が一学期に実践した指導事例を発表し、授業の展開方法や教材教具の工夫、改善すべき課題等についてグループ協議を行います。その後の全体会が行われ、各グループからの発表が行われ、授業改善につながる魅力ある授業作りを目指します。担当所員は、それぞれのグループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行います。

2 教育委員会主催研修会への協力

教育委員会が主催する研修会で、主に教育センターで行われる研修会や夏季休業中に煉瓦ホールで開催される教科専門研修(幼・小・中学校の全教員対象)の受付等の準備を行います。

また、夏季休業中に実施される郷土教育、外国語活動、食育、人権教育、特別支援教育、理科実技、昆虫スキルアップ、英語教育推進リーダー還元、がん教育に関する研修等の研修会においても支援業務を行います。

Ⅲ 相 談 部

学校生活相談係【適応指導教室(わかば教室)】

日野市立教育センターの相談部は、学校生活相談係が「適応指導教室(わかば教室)」の運営と「学校生活相談(主に長期欠席・不登校の児童・生徒について)」を行っています。

1 学 校 生 活 相 談

学校生活相談係は、児童・生徒の長期欠席・不登校〔主な内容：学校生活における精神的な悩み、人間関係でのストレス、登校しぶり、児童・生徒の心理的、又は環境をめぐる問題等〕に關しての相談や支援・助言を行います。具体的な活動は次の通りです。

(1) 相談活動

学校生活上の問題や不登校に関する相談、「適応指導教室(わかば教室)」に通室している児童・生徒への計画的・継続的な個別面談を実施する

(2) 「適応指導教室(わかば教室)」以下(わかば教室)通室児童・生徒への支援

安心して過ごせる学びの場(居場所)づくり、及び児童・生徒に応じた体験活動や学習活動の支援を通して、社会的自立や基礎学力の定着を図り学校復帰への支援を行なう

(3) 登校支援

学校訪問(年1回以上)、学校及び保護者との相談(随時)を実施する

(4) 学校・家庭・地域との連携

適応指導教室連絡会、通室状況報告の送付、保護者面談・保護者会・授業参観、わかば通信の発行、地域ネットワーク連絡会、スクールカウンセラー連絡会、地域を生かした体験活動

◇指導・支援スタッフ：教育センター所員3名、カウンセラー2名(毎日1名、週5日)、指導員4名(計9名、常時7名)のスタッフで業務に当たっています。「わかば教室」の学習・行事・生活全般にわたって、学生ボランティアの協力があります(29年度は10名が一日平均1~2名)。

「わかば教室」では、不登校や登校しぶりの状況にある児童・生徒の支援をします。具体的には、「わかば教室」に通室する児童・生徒が安定した心理状況で過ごせる居場所であり、学びの場であり、学校復帰を目指す場であるように努めます。そのうえで好ましい人間関係、集団への適応能力、学習への意欲、基礎学力定着、社会性や自立心の育成を目指し、個別あるいは少人数による指導・支援・相談をします。

※ ご相談は、電話 042-592-0863(時間 午前8時45分~午後4時00分)へお願いします。

◇「わかば教室」の一日

朝の会(9:20)で始まり、学習タイム(国語・社会・算数・数学・理科・英語・eラーニングを中心に個に応じた学習指導)、わかばタイム(曜日毎に、作文・スポーツ・図工・栽培・音楽)、ミーティング、SSTの時間割を組んで実施し、時間割内で個別面接(計画的・継続的なカウンセリング)を実施し、帰りの会(小14:15、中14:35)で終わります。



お茶会(お茶の先生の茶室で)

週1回スタッフのミーティングの時間を設け、子供一人一人の状況の情報交換・支援の検討を行い、指導・支援に役立てています。

◇「わかば教室」の行事

遠足、お茶会、誕生日会、スポーツ大会、収穫祭、夏休みの通室日及び補習日、地域の奉仕活動(老人ホーム訪問等)、社会科見学、図書館

訪問、音楽鑑賞教室、音楽会、書初め、卒業・進級を祝う会の行事や体験活動を実施しています。

これらの行事を通して、自らの良さや存在の大切さへの気づきの学習や、定期的に行うカウ

セリングで情緒を安定させ、子供たちが自信を取り戻すことができるように支援しています。

2 不登校児童・生徒への学習支援：eラーニング

(1) 「わかば教室」に通室している児童・生徒のための学習支援

わかば教室に通室している児童・生徒に対して、わかば教室の学習活動時間を利用し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図ります。

＊ 内 容

- ・学習時間：固定時間割 火：学習タイム1→小学生 学習タイム2→中学生
木：学習タイム1→小学生 学習タイム2→中学生
- ・活動場所：教育センター2階パソコン室

(2) わかば教室に通室できない児童・生徒のための学習支援

さまざまな理由からわかば教室にも通室できず、長期間欠席状況にある、又はそのような傾向にある児童・生徒に対して、居場所（わかば教室eラーニング学習室〔教育センター3階〕）で学習できる機会を設定し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図ります。

＊ 内 容

- ・学習時間：水曜日（わかば教室通室生下校時間後 ☆ 午後2時～4時）
- ・活動場所：わかば教室eラーニング学習室（教育センター3階）

※ 事前に調整が必要です。学校を通してわかば教室登校支援員（eラーニング担当者）に確認してください。eラーニングの日程等が上記1. 2. から変更になる事もあります。

3 不登校改善へ向けての取組み

(1) 適応状況調査について

不登校問題の改善をめざす「日野サンライズプロジェクト」の提言を受けて、市内各小中学校では適応状況調査を実施しています。適応状況調査は、各学校で作成し、教育委員会及び教育センター登校支援コーディネーターに報告されます。

(2) 適応状況調査の活用について

登校支援コーディネーターは、適応状況調査を集約して、毎月開催される定例生活指導主任研修会をはじめ、日野市適応指導教室（わかば教室）、日野市発達・教育支援センター（エール）等へ情報提供を通して、関係機関同士の連携・協力に活用されるよう図っています。

(3) 適応状況調査から見えてくる不登校の理由（100日以上欠席者の主な欠席理由）

適応状況調査から次のような不登校の理由が見えてきました。

- ① 集団生活への不適応 (約 25%)
- ② 家庭環境の問題 (約 20%)
- ③ 発達障害にかかわること (約 5%)
- ④ 生活リズムの乱れ、体調不良等 (約 50%)

(4) 不登校の未然防止に向けて

不登校の未然防止は、子供の表情や言動の変化に気づき、変化の背景にある悩みや困り感を丁寧に聞き取り、気持ちを軽くするためにはどうすればよいかを一緒に考えるところから始まると言えます。これは、(3)－①「集団への不適応」への対応の糸口として大切だと思っています。